

- ・環境影響予測は大洪水、中洪水、平常時に分けて、それぞれどういうことが起こるか整理する必要がある。

高島干潟における流況の特性を明らかにするため、1997年9月に岡山県により現地観測が行われています。現地観測の概要は以下のとおりです。

- ・観測日 : 1997年9月1日～9月4日
- ・観測ポイント : T2 高島干潟北側（下図）
- ・観測機器 : メモリーバック式電磁流速計
- ・観測方法 : T2において、センサー部分が海面に出ない箇所に電磁流速計を架台に設置し、海底より1.0m上の潮流を観測（2秒間隔で72時間連続測定）しています。

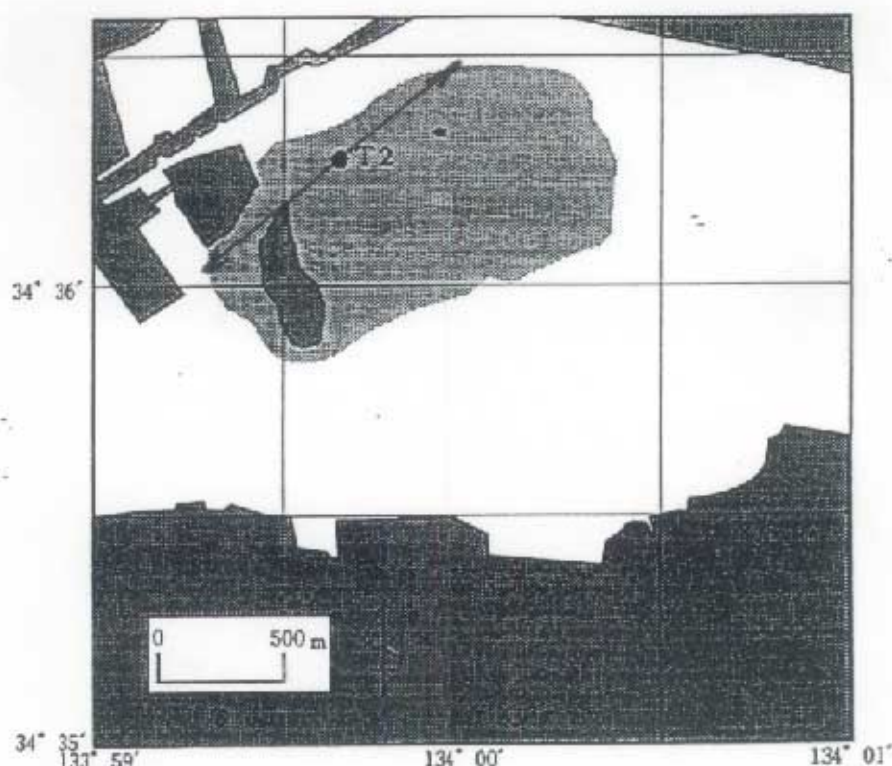


図 児島湾高島干潟流況調査地点図 1997/9/1～9/4

高島干潟での岡山県の現地観測結果を基に、同期間の沖元、沖田水位観測所における水位観測記録、水門操作記録から、高島干潟の流況と水門操作の影響について、以下のように考察されています。

- ・観測期間中の高島干潟上の流速は最大でも25cm/s程度でした。
- ・観測期間中は、4日ともほぼ同時刻の下げ潮時に水門操作を行っており、水門操作による百間川の水位下降はいずれも30～50cm程度でした。
- ・水門操作の有り無しの場合の下げ潮時の流速を比較すると、水門操作時に東方流速が多少大きくなる傾向が見られました。